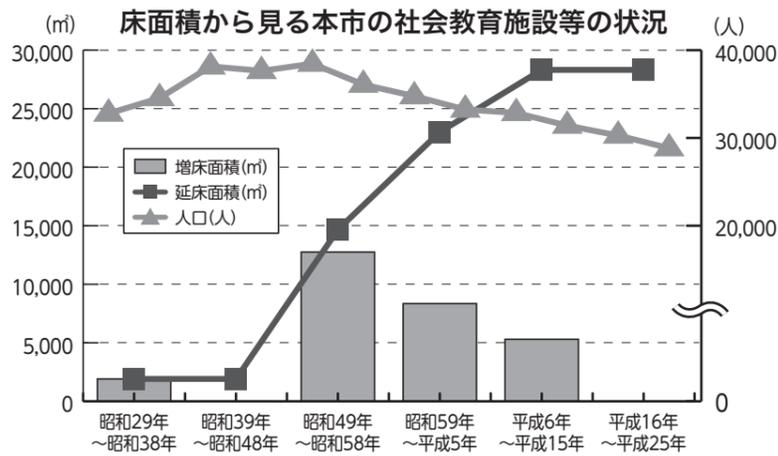


○10年ごとの社会教育施設等の面積を市制施行から表しています。
 ○棒グラフは、その期間に新しくできた社会教育施設等の面積を表しています。
 ○折れ線グラフ(■)は、その期間までの社会教育施設等の累積の面積を表しています。
 ○折れ線グラフ(▲)は、昭和30年から平成22年までの5年ごとの国勢調査の人口を表しています。



いつできたの？

あなたがいつも見ている景色の中に溶け込んでいる社会教育施設等はいつ頃からそこにあるのでしょうか。
 今月号では、本市にある社会教育施設等がいつ頃できたのかを見ていきます。現在本市がマネジメントに取り組んでいる16の社会教育施設等の建設年表を見ながら、コイちゃんと一緒に考えてみましょう。



公共施設マネジメント

問い合わせ 企画財政課 ☎2125

Q1 できた時期には片寄りがあふんだね

一番古い大竹会館(旧館)から一番新しいコミュニティサロン玖波が完成するまで34年の月日が流れています。なかでも、昭和55年から平成2年までの10年間には、多くの社会教育施設等が完成しています。

Q2 昭和55年からの10年間ってどんな時代だったの？

この10年間は、高度経済成長が終わった後の低成長期を経て、バブル景気と言われる好景気を迎えた時代で、多くの人が豊かさを感じた時代でした。

本市の昭和55年の人口は約3万6千人。本市においては既に人口のピークは過ぎていましたが、まだ全国的には人口は増えていました。また平均寿命も毎年伸びている時代で、人々は自己の充実・啓蒙や生活の向上のための生涯学習活動に積極的に取り組むようになってきました。

Q3 ところで建物ってどのくらい持つの？

平成24年に策定した社会教育施設等の再編基本方針総論で、社会教育施設等の鉄筋コンクリート造りの建物は築60年程度で建て替えの時期が来るとしています。

今ある施設を、そのまま順次建て替えると、総合体育館が築60年を迎える平成50年頃から再び建設ラッシュが始まることとなります。

前回建設ラッシュが始まった昭和55年と比べると本市の人口は7,800人程度減少しています。また皆さんの生活様式も趣味も多様化し、あまり使われない施設も出てきました。

時代は変わっても、施設はできるだけ長くいろいろなことに使ってほしいな!!



Q4 この10年間は社会教育施設等を作っていないの？

本市で一番新しい施設は、平成9年に完成したコミュニティサロン玖波ですが、もうじき19年目を迎えます。社会教育施設等のうち10の施設は昭和の時代に完成しています。昭和38年に完成した大竹会館の旧館はすでに築50年を超えています。

Q5 実際に社会教育施設等の広さってどのくらいあるの？

生涯にわたって学習したいという思いの広がりに合わせて、社会教育施設等の床面積は、グラフのとおりどんどん増えていきました。

現在、16の施設の延床面積の合計は、28,000㎡を超えています。

Q6 どの施設をどんな大きさで建て替えるかを考えるのがマネジメントじゃない？

施設の持つ効果が最大限に発揮できるように考えることです。

一つは、施設にどのくらいお金が必要かを考えます。社会教育施設等に限り、施設は作る時だけでなく、維持にもお金がかかります。少なくとも人々で施設を建て替えたり、維持したりするのは、難しいということになります。

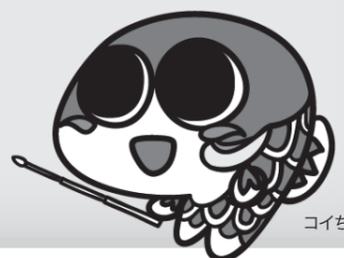
もう一つは、施設を資源として考えます。せっかくあるものは大切に使い、できるだけ長持ちさせていきます。

大竹市の施設って30年くらい前からどんどん増えていったんだね。ところで施設にはどのくらいお金がかかっているの？



答えは次号で!

社会教育施設等建設年表



コイちゃん

昭和38年 ◆大竹会館(旧館)

昭和49年 ◆玖波公民館

昭和55年 ◆総合体育館
(参考) 市役所本庁舎

昭和56年 ◆総合市民会館

◆栄公民館
◆農林振興センター

昭和57年 ◆小方公民館

昭和59年 ◆大竹会館(新館)
増築

昭和62年 ◆旧小方中学校体育館

昭和63年 ◆図書館

◆自然の家やさか

平成2年 ◆大竹会館講堂
(アゼリアホール)

平成6年 ◆サントピア大竹

◆コミュニティサロン
元町

平成8年 ◆コミュニティサロン

栄町

◆海の家あたた
(参考) 消防庁舎

平成9年 ◆コミュニティサロン
玖波